

ワイヤレス固定ブロードバンド（専用型）の標準判定式について

2023年11月17日開催の研究会でのご説明をもとに、標準判定式の構築に向けて検討を重ねてまいりましたが、ワイヤレス固定ブロードバンド（専用型）につきましても、

- ・まだ実績が少ない
- ・今後普及が進むにつれてコストが変動していく可能性が高い

ことから、一定の精度があるモデルを策定することは現時点で難しく、加えて、次回の制度見直しが予定されている時までの間に支援対象となるであろう新規案件が見込み難いことから、標準判定式を構築することは時期尚早と判断し、今回は見送り、施行状況を見定めてはいかがでしょうか。これに伴い、当日の説明資料の概要部分（下記）を削除いたします。

<2023年11月17日ご説明資料(p1)>

~~【ワイヤレス専用型】~~

- ~~・ワイヤレス専用型に関しては、既存の提供エリアが少なく、設備更新の実例も少ない。特別支援区域におけるブロードバンド未提供エリアでの新規の提供のケースが多くなるものと想定しています。~~
- ~~・現状は新規の構築するエリアごとにエリアの事情や機器の選定方針により、多様なパターンが生じるため、代表的なワイヤレス専用型の構築モデルを策定し、そのモデルをベースに標準算定式を創ることがよいのではないかと考えます。~~

<ブロードバンドサービスに関するユニバーサルサービス制度におけるコスト算定に関する研究会(第4回会合)>

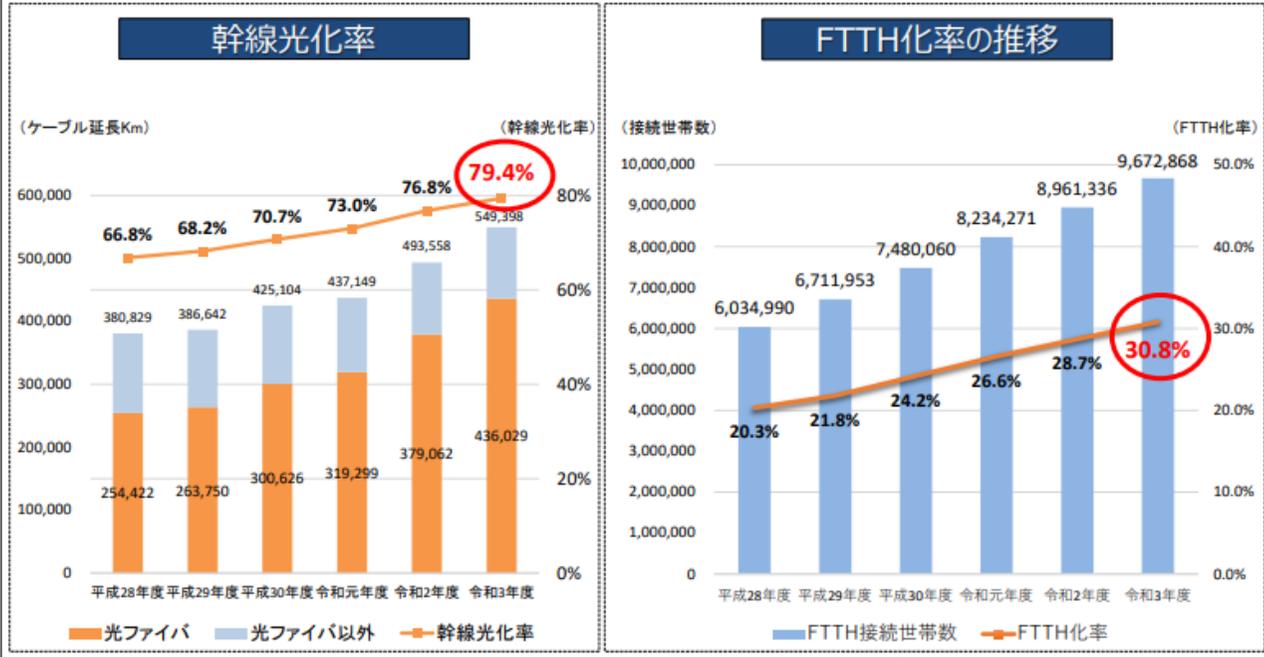
北口構成員様からのご質問：

HFC方式からFTTH化を進めている事業者が多いというような御説明がございましたが、今後、HFC方式というものがなくなって、もうFTTHに完全に移行するという見込みがあったりするののか

⇒ FTTHへの移行の状況が分かる資料を提出する（日本ケーブルテレビ連盟）

ケーブルテレビの光化の状況 17

● ケーブルテレビネットワークの光化については、**幹線においては79.4%**、各世帯への引き込み部分においては**30.8%**となっている。



総務省様の資料より
https://www.soumu.go.jp/main_content/000880106.pdf